

《報告》

宮城県石巻市荻浜地区の仮設住宅におけるサービスラーニング

廣瀬加奈、日暮陽子、川崎和彦、塚原丘美、田村 明

宮城県石巻市荻浜は牡鹿半島のほぼ中央に位置し、主に牡蠣の養殖を生業とする小さな漁師町である。2011年3月11日に発生した東日本大震災で壊滅的なダメージを受け、その住民の一部は仮設住宅での生活を余儀なくされている。その荻浜地区と管理栄養学部との交流は、震災直後の2011年6月から始まったが、その詳細は名古屋学芸大学健康栄養研究所年報（第5号、2012年）に掲載されているのでここでは省略する。

この度、2014年2月27日～3月12日（春期）、および2014年8月6日～9月2日（夏期）の二回、学生と共に現地に赴き、食事提供を介して数々の事を学ぶことができたので、その詳細を報告する。まず、サービスラーニング*を実施した石巻市荻浜地区の現在の状況を簡単に説明する。

石巻市荻浜地区の現状

荻浜は垂下式牡蠣養殖の発祥地として栄えてきたが、東日本大震災による津波により養殖場は壊滅的な被害を受け、養殖は一時停止していた。しかし、ボランティアの応援もあり、震災の年には牡蠣養殖を再開し、2012年より出荷を再開している。また、震災により1.2mも沈下した地盤をかさ上げする荻浜港の護岸工事に加え、漁師にとって命と同様、と表現される漁船も揃い始めている（写真1）。牡蠣の加工に必須とされる共同かき加工場も新設された（写真2）。さらに、津波被害を受けた石巻市役所荻浜支所の跡地には、一度は津波で流された「牡蠣養殖の父、宮城新昌」の顕彰碑が復興のシンボルとして再建された（写真3）。

* サービス・ラーニングとは、教室で培った学問的な知識・技能を、地域社会の諸課題を解決するために、組織された社会的活動に生かすことを通して、市民的責任や社会的役割を感じ取ってもらうことを目的とした教育方法である。筑波大学HPより抜粋

11月上旬から3月上旬まで行われる牡蠣剥きも最盛期を迎え、ようやく3年ものの牡蠣（写真4）を出荷できるところまでこぎ着けた。しかし、福島第一原発での放射能汚染による風評被害が強く、出荷しても快く購入してもらえないと、宮城県漁業協同組合の監事が話しておられた。宮城県における水産物の出荷については、国の基準より厳しい検査を課しているとの事だったが、一般には認識されておらず、水産業の厳しい現状を垣間見ることができた。



写真1 漁船も増え復興しつつある荻浜漁港



写真2 新設された茨浜共同かき加工場



写真3 「牡蠣養殖の父、宮城新昌」の顕彰碑



写真4 3年間養殖した収穫間近の牡蠣



写真5 仮設家ノ入団地(総数15戸程度の小さな仮設団地)

このように、地場産業は復興しつつも、基盤となる住居の整備が遅れ、地震発生から3年半を経過した今も仮設住宅(写真5)に住んでおられるのが現状である。

1. 茨浜仮設住宅におけるサービスラーニングの目的

- ①仮設住宅(写真5)で生活をされている被災者に、本学学生ができる物理的支援として食事提供を行う。
- ②本活動を介して地震発生時、直後および3年経過後の状況を認識する。
- ③被災時および被災後の管理栄養士の必要性・継続的な支援について考える。

2. 茨浜仮設住宅におけるサービスラーニングに赴く前の事前教育

- ①現地に関する情報収集とその勉強会
第1回目：東日本大震災による被害状況について
震災後の宮城県の復興状況について
第2回目：石巻市の天候、満潮時刻などの気象状況について
東北の方言や習慣について
第3回目：しおりの配布
保険、持ち物、緊急連絡先などの打ち合わせ

②献立作成

第1回目のサービスラーニングとなる春期の献立(36食)作成は、献立作成を専門的に学んでいるサークル(カンティーン)に依頼した。夏期のメニュー(12日間の朝食、昼食、夕食、計36食)は、ボランティアに出かける学生が手分けして作成した。

1食700kcal前後とし、食事提供対象者の年齢層、季節、使用できる調理器具や調理場、食材の旬などを考慮して献立を作成した(図1、表1)。また、名古屋めしと呼ばれる献立を設けることや提供時には1食分のエネルギー(kcal)と塩分量(g)を表示することで、食事に興味を持って楽しんでいただけるよう工夫した。

<p>2月28日 朝食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・厚揚げときのこの煮物 ・大根とわかめのサラダ ・えのきとじゃが芋のみそ汁・漬物 	<p>2月28日 昼食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・ホイコーロー ・フロッコリーのえび塩あえ ・にら玉汁・漬物・牛乳かん 	<p>2月28日 夕食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・鶏肉のねぎソースかけ ・ほうれん草の柚香和え ・玉ねぎと油揚げのみそ汁 ・漬物・果物（バナナ）
<p>3月1日 朝食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・松かさ焼き ・小松菜の煮びたし ・エリンギとわかめのみそ汁 ・漬物 	<p>3月1日 昼食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・カレーうどん・湯豆腐のあんかけ ・もやしと人参の甘酢和え ・抹茶ういろろ 	<p>3月1日 夕食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・鮭と鱈のチャンチャン焼き ・白菜のナムル・きのこ汁 ・漬物
<p>3月2日 朝食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・ハムエッグ ・もやしとにらのソテー ・大根と人参のスープ・漬物 	<p>3月2日 昼食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・天むす・どて煮（豚バラ、大根） ・豆腐汁 ・果物（みかん） 	<p>3月2日 夕食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ごはん・鯖のみそ煮 ・ほうれん草のおひたし ・揚げ茄子の肉みそかけ ・里芋のみそ汁・漬物
<p>3月3日 朝食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・焼きおにぎり ・温野菜サラダ・コーンスープ ・果物（りんご） 	<p>3月3日 昼食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・中華丼・笹かまぼこの味噌炒め ・魚団スープ・漬物 	<p>3月3日 夕食</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ひな寿司・小えびのかき揚げと天ぷら ・ごぼうサラダ・湯菜と三つ葉の清汁 ・漬物・果物（いちご）・小倉サンド

図1 春期に提供した食事の一部

表1 夏期に提供した献立の一部

1	2	3	4
ご飯 冷や奴（山形風だし） ほうれん草のお浸し スライストマト 漬物	ご飯 お麩とほうれん草の卵とじ オクラの胡麻和え なめこ汁 漬物	ご飯 鮭と小松菜のさっと炒め カボチャのミルク煮 なすと玉葱の味噌汁 漬物	ご飯 千草焼き オクラとエノキの梅とろろ和え 豆腐とわかめの味噌汁 ヨーグルト
冷やし中華 わかめスープ 漬物 フルーツ白玉	ご飯 いわしの梅しそ巻フライ もやしときゅうりの中華風サラダ（付け）、ミニトマト かにかまと冬瓜のあんかけ けんちん汁、バナナ、漬物	夏野菜焼きうどん 油揚げとほうれん草のすまし汁 抹茶いろいろ	ご飯 蒸し鶏の香味ソースかけ ほうれん草の胡麻和え エノキとわかめのスープ ヨーグルトゼリー
ご飯 豚の甘酢あんかけ ひじきの煮物 玉葱の味噌汁 グレープフルーツ	どて丼 ほうれん草と人参のお浸し 焼きナス すまし汁（わかめとお麩） 漬物	天むす 牛肉と野菜の冷しゃぶ きゅうりとわかめの酢の物 夏の星空汁	ご飯 鮭のソテー（卸ボン酢） なすとピーマンの味噌炒め 味噌汁 リンゴ
1	2	3	4
ご飯 焼き鮭 ほうれん草のお浸し 味噌汁（油揚げと豆腐）	ひじきご飯 だし巻卵 彩り野菜のおかか炒め カボチャの味噌汁、 黄桃	ホットドック ほうれん草とキノコのソテー、コンソメスープ バナナヨーグルト 茹で卵	ご飯 親子煮 きんぴら 具沢山味噌汁 グレープフルーツ
ご飯 鯖のねぎ味噌だれかけ シャキシャキ胡麻和え こんにゃくのピリ辛煮 玉葱とシイタケのスープ	ざるきしめん 夏野菜の天ぷら キュウリとわかめの酢の物 オレンジ	ご飯 青梗菜とイカの炒め煮 えびしゅうまい 中華風春雨サラダ	あんかけスパゲッティ えんどうサラダ ミルクゼリー
ご飯 とんてき （付：キャベツ、ミニトマト） ポテトサラダ えのきと卵の味噌汁	ご飯 麻婆豆腐 わかめと春雨のスープ なすときゅうりの生姜和え	チキンライス エビフライ アスパラとパプリカと大根のサラダ、コンソメスープ スイカ	ご飯 豚肉となすの甘辛煮 きゅうりとわかめの酢の物 大根と小松菜の味噌汁 きゅうりの漬物、梨

3. 萩浜仮設住宅におけるサービスラーニングの実施

①日程

萩浜滞在時は、調理をする班（A）と石巻市内の視察や買い出しをする班（B）に分かれ、1日ごとに交代した（表2）。

②調理

調理および食事提供は仮設住宅の一戸をお借りして行った（写真5）。食材の買い出しは、引率教員が運転する車で市街地まで（片道お

よそ20km）毎日出かけた（写真6）。調理の際は衛生面に特に注意し、手洗いやアルコール消毒を徹底した。生ものを扱う際は調理用手袋を着用し、一般用のまな板とは別のまな板を使用した。揚げ物や焼き物は中心温度を測定し、中まで火が通っているか確認した。献立に記されている要領で調理したのち、必ず味見をし、味の微調整を行った。また、提供時においしく食べられる温度になるよう、調理時間を工夫した（写真7、8）。

表2 スケジュール

	A	B	
4:30	起床		
5:00	朝食準備	清掃・配膳準備	
6:00	朝食提供		
7:00			
8:00	片付け・朝食		
9:00	作業手伝い		
10:00			昼食準備
11:00			昼食提供
12:00		昼食	
13:00			
14:00	昼食	石巻市内 視察	
15:00	夕食準備		
16:00		食材購入	
17:00	夕食提供		
18:00		夕食	
19:00			
20:00	打ち合わせ、入浴		
21:00			
22:00	就寝準備		



写真7 調理場（一般家庭の台所より狭い）



写真8 調理中（被災者からの「美味しい」が励みに）

写真6 石巻市街地での買い出し
(春期、おそろいのパーカー姿で)

提供開始時間から皆様に喫食に来ていただき、食事提供しながら、食事の感想、普段の食生活や震災のことについてのお話を伺うことができた(写真9～11)。第一回目のサービスラーニング後、食事の味付けなどの意識が変化し気を使うようになり、血液検査値が改善した等の意見を第二回目にお聞きすることができた。

③被災地の視察

第1回目のサービスラーニング時には、繁忙期であった牡蠣剥きの作業場を見学させていただき(写真12)、第2回目には漁船で牡蠣養殖場を見学させて頂いた(写真13)。また、海辺に面した石巻市内が一望できる日和山公園(写真14)や女川町地域医療センター(写真15)から壊滅した街並みを視察した。



写真9 食事提供の部屋 (NUAS 食堂と命名)



写真10 食事提供中の様子(名古屋めし、とても好評)



写真11 提供中の様子(若い学生に囲まれ笑い声がいっぱい)



写真12 荻浜牡蠣加工場内での牡蠣剥き作業



写真13 漁船に乗せていただき牡蠣養殖場の見学



写真14 日和山公園から見た石巻市門脇地区



写真15 女川地域医療センターから見た女川市内

表3 ボランティア参加学生一覧

第1回	引率教員	3年生	2年生
グループ1	田村	下平佳恵 立川佳菜子 西脇愛望 早川裕希	中山満喜 田口博美
グループ2	日暮	渥美里奈 嵐桂子 大社真奈 鶴田早紀	玉村優美 松本貴哉
グループ3	塚原	相澤明子 片岡千咲 齋藤絵梨香 福嶋桂	伊藤優里 白井仁美

第2回	引率教員	3年生	2年生
グループ1	田村	田口博美 佐藤里江 千葉ひかり 林史奈 西側亜紀	長江郁音 松井美冴 松井佑月
グループ2	日暮 廣瀬	松本貴哉 国保成実 水野陽子	浅野沙歩 井上夏那 加藤里衣 丸井美の里
グループ3	川崎	白井仁美 辻村衿菜 水谷詩位菜	加古沙織 澤邑茜 鈴木友里

4. 荻浜仮設住宅におけるサービスラーニング後の事後指導

2014年4月28日(月) 17:20～

2014年10月20日(月) 13:00～

サービスラーニングに参加した学生が集まり、現地での活動の報告会を開催した。これから参加したいと考えている学生が真剣に報告を聞いていた。

5. 荻浜仮設住宅におけるサービスラーニングに参加した学生一覧

食事提供をするサービスラーニングの実施に際し、給食管理実習を履修した2年生、3年生を対象に参加希望者を募った。1万5000円程度の出費が伴うにもかかわらず、参加を希望する学生が多く、抽選で参加学生を選び、第1回(春期)は18名、第2回(夏期)は21名の学生が参加した(表3)。第1回目に参加した学生のうち3名を第2回目も参加させ、各グループのリーダーとした(表中では太字で示してある)。

6. 荻浜仮設住宅におけるサービスラーニングを終えて

1) 学生が感じたこと(第2回目も参加したリーダーの報告書を掲載)

(1) ボランティア前に東日本大震災や被災地について思っていたこと

①東日本大震災は、私が生まれてから起きた震災の中で1番大きなものでした。毎日のようにテレビでニュースが報道され、テレビCMが中止になったり、日本中で節電を実施したりな

ど、さまざまな事が自粛モードとなって、遠く離れた土地に住んでいる私たちの生活にも変化があったことを覚えています。また、あのように大きな津波の映像を見たのも初めてでした。多くの家や車が一気に流されていく様子は衝撃的で現実のものとは思えませんでした。4年たった今でも、あの映像は忘れられないし、何年たっても忘れてはいけないと思います。

②地震が発生した当時、私は地震が起きたんだなあ…程度に感じていた。ニュースなどで震災直後の様子を見たときにどれだけひどい災害だったかを理解したが、どこか自分たちとは関係ないと思っていた。

③「すごい被害だった」「津波による被害が大きかった」「阪神淡路大震災とちがいで、水死の人が多かった」などの言葉や文章からの情報はあったが、「津波」というのを見たことがなく、水が押し寄せてくるものなのか、高く上がって降ってくるものなのか、アニメに出てくるような形の波が本当にできるのか、まったくイメージがつかめていない状況だった。被災地についても、避難生活というもののイメージがまったく掴めていなかった。避難所の様子などはテレビのニュースなどで見たことがあったが、ここで長い間生活するというのはどういうことだろう、と思っているような状態だった。
(2) 荻浜について(訪問してみても感じたこと、わかったこと)

①荻浜は、海、山に囲まれ自然に満ちあふれた土地でした。荻浜湾は「世界の牡蠣王」と呼ばれた「宮城新昌」が、牡蠣の種苗・養殖の最適

地として研究・開発に取り組んだ場所です。震災で一度は流されてしまったけれど、復興し今でも牡蠣の養殖がおこなわれています。私たちも船に乗せていただき、見学をしました。また、荻浜は本当に温かい人たちばかりで、私たちにとっても親切にしてくださいました。提供する料理はすべておいしいと言って食べてくださったし、私たちが夕食をとっているときには、荻浜の新鮮な魚介類や、家庭で作った料理などをふるまっていたいただきました。自分たちがボランティアに来ていることを忘れるくらい良くしていただきました。荻浜の人たちの温かさがあったからこそ、1週間頑張ることができたと思います。

②震災から約3年が経過していたので、だいぶ復興されているのではないかと私は考えていた。実際に復興は進んでいたようだが、3年たった今でも震災の爪痕が残っていた。さらに画面を通してではなく実際に見たことで、より生々しく感じられた。

③復興が意外に進んでいて、漁業（牡蠣の養殖）が普通に行われていたのに驚いた。1回目の訪問の前は、被災者の方々が今どんな気持ちなのか分からなかったため、「発言には気を付けないと」「よそ者があまり笑顔で楽しそうにしていたらいい気はしないかな」とすごく心配していたが、実際に行ってみると荻浜の人たちはみんな温かくいつも笑顔で元気な人ばかりで、震災についても積極的に話してくださる方ばかりだった。

(3) 現在の状況について（石巻市や荻浜について、産業についてなど）

①石巻駅の近くや、市の中心部はかなり復興が進んでいるように見えました。新しい住宅や、新しいお店が立ち並んでいました。しかし、中心部から外れ海の近くに行くにつれて復興がなかなか進んでいない様子が見られました。住宅や外にある階段が崩れたまま放置されている様子がいくつも見られました。そのようなものを見ると復興はまだまだなのだと感じました。かつては、がれきが25mほど積み上げられている場所も見学しましたが、今はがれきはすべて撤去されていました。住宅街であった場所は、

草が生えた空き地になっていました。家の持ち主と連絡が取れない家のみが取り壊しができず空き地の中にぼつんと残っていて、切ない気持ちになりました。

②今回のボランティアでは、どのように牡蠣が養殖されているかを船に乗せていただき、間近で拝見させていただきました。荻浜湾に浮きが大量に並んでおりそれぞれの浮きの下に牡蠣が養殖されています。カキの養殖はホタテの貝殻に稚貝といわれるカキの子供を直接つけておき、2年間かけて育て収穫しています。牡蠣の養殖は、ホタテをロープに挟み、浮きを付けて、海中に沈めて育てますが、東日本大震災によって発生した津波によりこのロープや浮きが流されたり、牡蠣が落ちたりして、養殖場も壊滅、収穫が不可能になりましたが現在ではようやく収穫できるまでに復興してきました。しかし無事に立派なカキを収穫しても、なかなか売れないということです。地震により起きた原発事故による風評被害があるからです。これは牡蠣だけでなくすべての水産物に言えることで、放射性物質検査で基準値を下回っているにもかかわらず原発事故、放射性物質といった言葉が消費者の買う手を止めてしまっているそうです。

③タクシーの運転手さんが石巻市は津波が街まで来たけど、震災前のようになったと話されていた。でも、まだビニールシートがかかっていた家もあった。漁業は現在再開しているが、放射線の風評被害のせいで、前ほど売れないらしい。

(4) 食事提供について

①仮設住宅で4日間食事提供をさせていただきました。事前に自分たちで献立を立てたので美味しいと言って喜んでもらったことがより自信につながりました。夏なので事前に下準備をしておくことができなかったのですが、調理人数が多かったので提供時間には間に合わせることができました。不安だった名古屋めしの提供も喜んでいただけたので良かったです。汁物の味付けはレシピ通りだと薄いという意見をいただいたので、少し濃いとを感じるくらいにしました。地域によって味の好みが違うので美味しいと思ってもらうために、その地域にあった味付

けにすることが大事だと思いました。

②今回仮設住宅をお借りして提供する食事を作らせていただいたが、普通のキッチンより少し小さめの設計だったので、大量調理をする際に鍋やフライパンをコンロに並べておけなかったり、作ったもの置くスペースがなかったりと調理工程以外にも考慮するところが多くありました。

③1度目のときは冬だったため、前日の下ごしらえをかなりやっておくことができたが、2度目の訪問は夏だったので特に衛生面に気を付けて調理をした。前日準備は調味料をはかるだけにした。手洗い、食器や調理器具のアルコール消毒を徹底した。

(5) 仮設住宅での生活について

①住人が引っ越された仮設住宅の一戸をお借りし、8人で泊まらせていただきました。私たちがお世話になった荻浜の仮設住宅ではとにかく買い物が不便でした。先生の車がないと買い物に行けないので前日の買い出しは漏れがないように注意しました。キャリーケースや机などがあつたので寝るときは寝返りも打ちづらく、少し狭いと感じました。8人もいたので夕飯の片づけをしたらだと1つのお風呂では時間がかかりすぎてしまうので、仮設住宅の二軒のご家庭にお風呂をお借りしていました。かなり遅い時間になってしまうこともありましたが、「遅くまでご苦労様」と言ってくださり、被災者の皆様の温かさに感動しました。生活に最低限必要なものは揃っていますが、あくまで仮設住宅なので家が無いことへの不安は大きいのかと感じました。

②3月、8月の提供では内容が違い、3月には仮設住宅の皆さんは朝から牡蠣剥きの仕事があったので全体的に8月のボランティアより内容が厳しく思えた。仮設住宅での生活では、やはり人数が多かったためスペースが狭く感じられた。しかし一般の家族が住むには十分なのではないかと考えられた。

部屋にはエアコンが設置されていたので多少の温度調節は可能だったが冬の夜は寝袋がないと寒く感じられた。

③あまり不便を感じることはなかった。キッ

チンは20人分前後の食事を作るには少し狭いと感じたが、一般家庭と考えると十分な広さだと思った。ただ、壁が薄いからか、隣の家のテレビの音が聞こえた。2度目の訪問は布団がなかったので寝るときに体が痛かった。夏だけど涼しかったので、朝方は寒いと感じた。

(6) 荻浜の方々から伺った話やふれあいについて

①日和見公園へ視察に行った際、門脇地区に住んでおられた被災者の方のお話を伺うことができました。その方は息子さんを津波で亡くされたそうです。「親思いの優しい息子で、地震に襲われた際、私たちが心配で家へ戻ったのが間違いで、そこで津波にさらわれてしまいました。息子以外は無事だったのですが、嫁と孫は岩手県の実家に戻っており、仮設住宅で家内と二人で住んでいます。」と淋しそうに話して頂きました。名前も知らない私たちに大切なご家族の写真を見せてくださり、さらに、話したおかげで楽になったと言ってくださいました。

②食事提供中、荻浜の方々はまだどうしているかわからなかった私たちに積極的に話しかけてくださいました。私たちがみなさんと話すのに慣れてくると、思い出すのも辛いはずなのに震災当初のことを話してもらえました。さらに、3月には牡蠣、8月には蝦蛄やカニといった新鮮な魚介類を差し入れしてもらいました。本来私たちがみなさんにおいしいものを食べてもらうはずだったのに、逆にこちらがもてなされていた感じがします。

③1回目も2回目もニュースでは知ることができない生の声が聞けた。1回目は食事提供の際の話が全部震災についてだったくらいたくさんのお話をきかせていただいたのが印象的だった。2回目の訪問のときは、津波の水圧で2階の床が抜けた住宅を見学させていただいたり、女川原発のPR施設に行ったり、原発が実際に見えるところにつれていっていただいたり、津波のDVDをみせていただいたり…1回目ほどたくさんの方からは話を聞くことができなかったが、1回目より震災の被害を目で感じることもできた。

(7) これから必要な物・事は何か

①夏だったのでクーラーボックスが1つありましたが、その他は段ボールで運んでおり、ごみが出てしまっていたので買い物かごのようなものがあるといいと思いました。これからもこのボランティア活動は必要だと思います。もっと提供日数が増えれば、参加人数も増え、このボランティア活動が広まっていくのではないかと思います。

②これから私たちはこのボランティアで聞いたこと見たことを多くの人に知ってもらうことが必要だと思います。おそらく多くの人たちは私のように、震災で大変なことは分かっているが、間近で見えていない限りその重大さが理解できていない人だと思います。そんな人にも震災の過酷さ、どれだけの苦勞をしていたのかを私たちを通じて知ってもらうことが必要だと思います。

③風評被害を取り除く。

(8) 被災時や被災後での管理栄養士の役割についてどう考えるか

①被災時は食料が足りないのです、そこにある食料だけで炊き出しを行う技術や工夫が必要だと思います。また、被災者は皆不安だと思うので、炊き出しの際のコミュニケーションが大事だと思います。被災後は食料が足りていなかったとのことで、栄養に偏りが出てしまったようです。不足している栄養素を補うことが必要だと思います。また、被災時でのことをより多くの方に伝え、これからにつなげていくことが大事だと思います。

②荻浜の人との会話の中で「こんなに野菜を食べるのは久々」や「おかずがたくさんある」という会話を何度か聞いた。このことから普段から野菜を食べていないことがわかる。そして8月のボランティアで再び訪れた時、「前回のボランティアで毎日食べに来ていたら、健康診断の数値がよくなった」と言われました。仕事などで忙しく簡単な食事や、魚介類を食べることの方が多いということなので、被災後には簡単に作れる野菜を使った料理を紹介してみたり、魚介類と野菜を組み合わせたレシピの提供が有効だと思われま

③簡単にできる食事のメニュー提供、実際に被災地に足を運び現状をみる。

(9) ボランティアを終えて

①被災者の皆様にはとても喜んでいただき、ボランティアに参加した私たちも多くのことを感じ、学びました。被災者の方の生の声を聴くことで、テレビや新聞では報道されていなかった事実や気持ちを知ることができ、とても勉強になりました。

②ボランティアを終えて私はボランティアというものに興味を持ちました。今回のボランティアで自分がやったことに対して、本気でありがとうという言葉が聞くことができ、普通に働くことと違ってお金などもらえなくてもちゃんと頑張ろうという気持ちになれました。そしてボランティアを通じ多くの人から多くのことを学ぶことができるからです。このような活動は社会に出てからはなかなかできないので学生のうちに積極的に参加していこうと思っている。

③荻浜の人たちが温かく迎えてくれて、うれしかった。食事提供すると、いつも感謝されました。いい経験になった。ニュースを見ても分からないことはたくさんある。実際に見て・聞いて感じることでさらにイメージが明確になる。2回訪問させていただいたが、2回目にも学ぶことがたくさんあった。だから何回行っても無駄にはならないと思う。

2) 教員が感じたこと

震災発生当時、地震の被害状況をテレビのニュースや新聞等のメディアを介し見聞きし、衝撃を受けてから約3年が経過し、それらの報道は時間経過とともに減っている。被害を受けず普段と同じ生活を送っている人にとっては、その記憶が薄れつつあることは否定できない。荻浜に向かう途中の仙台駅や石巻駅では震災の被害を痛感するような景観は減っており、確かに復興は進んでいるのだと感じながら、荻浜仮設住宅に到着した。お借りした一室で食事提供、生活をさせていただいた中で、壁が薄く隣のテレビの音が聞こえてくることや、冬はとても冷え込んでしまうことなどを感じ、やはり安

心して生活を行う環境にはまだ十分とはいえない状況である事がわかった。震災後、以前の生活からは大きく変化し、大変なご苦労があったことを痛感したが、仮設住宅で生活しておられる皆様はとても温かく私たちを迎えてくださった。また、思い出すことも辛いような、実際の津波時の写真や、被害を受けた家屋などを見ながら震災を経験されたお話を伺うと、今まで実感がなかった震災のことが、一瞬の判断の違いで生死を分けてしまう恐ろしいものだったのだと強く感じた。萩浜の皆様が私たちにむけてくださる温かさの裏には、一瞬にしてすべてを奪われてしまった状況から、自分たちが前を向いて進まなければという心の強さがあるのだと思った。

私たちは萩浜仮設住宅で皆様に食事を提供する事ができ、皆様に「おいしい」と言って頂けた事で、今回のサービスラーニングがこれからの自分自身にとって大きな糧にすることができた。萩浜の皆様の温かさや、思いやりの心に触れ、座学では学ぶことのできない貴重な経験をさせていただいた。

7. 謝辞

サービスラーニング実施に際して、私たちに温かく迎え入れ、多くのお言葉をかけて下さいました萩浜家ノ入仮設住宅の皆様、特に萩浜区長の江刺みゆき様、宮城県漁業協同組合監事の伏見眞司様に心から感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。